

埼玉県

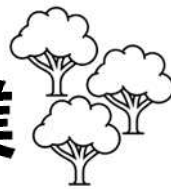


しんりん

りんぎょう

森林・林業

と



かつじゅ



活樹



©第75回全国植樹祭実行委員会



かつじゅ
活 樹

という言葉を知っていますか？

○ 「活樹（かつじゅ）」という言葉を知っていますか？

 ^き 樹  を活用  すること。



せつきよくてき
**木材を積極的に
利用していくこと**
です。



- 答えは、「樹（き）」を「活用」すること。つまり、「木材を積極的に利用していくこと」という思いを込めた言葉です。
- そして、この「活樹」という言葉のとおり、「木材を積極的に利用する」ことが健全な森林を守っていくことにつながっていくのです。

森林を守る = 木材を使う



○ ですが、「健全な森林を守る」ために「木材を積極的に使おう」っていったいどういうこと？「木を伐らずに残していくこと」が自然を守ることなんじゃないの？と思った人もいないのでしょうか。

じんこうりん
人工林

木材を生産するために、人が植えて育てた森林



てんねんりん
天然林

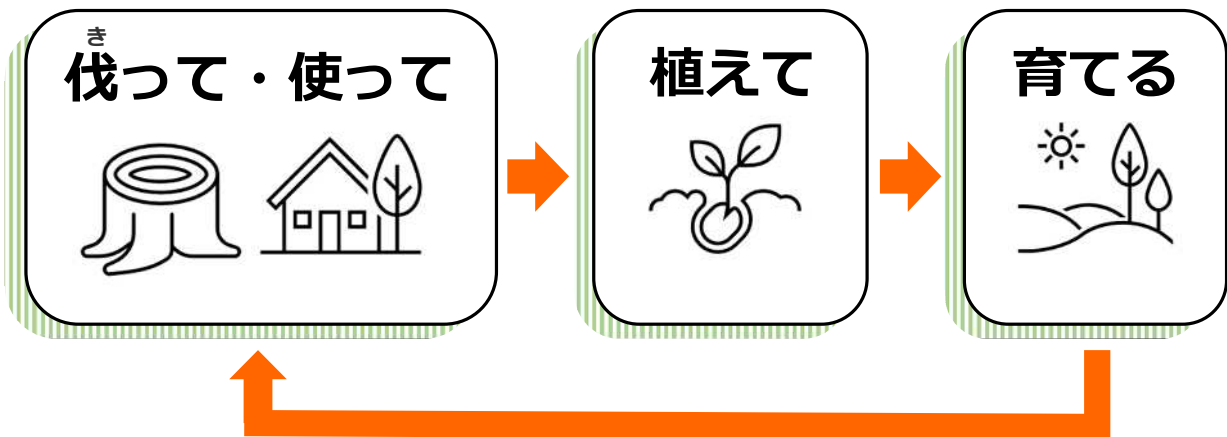
人の手を加えずに、自然の力で育った森林



○ 木材を生産するために、人が植えて育てた森林を「人工林（じんこうりん）」と言います。主にスギやヒノキなど成長の早い針葉樹が中心の森林です。

○ また、人の手を加えずに、自然の力で育った森林を「天然林（てんねんりん）」と言います。ドングリの実るクヌギやコナラなどの広葉樹が中心の森林です。

\\ 実はこの循環がとっても大事 //

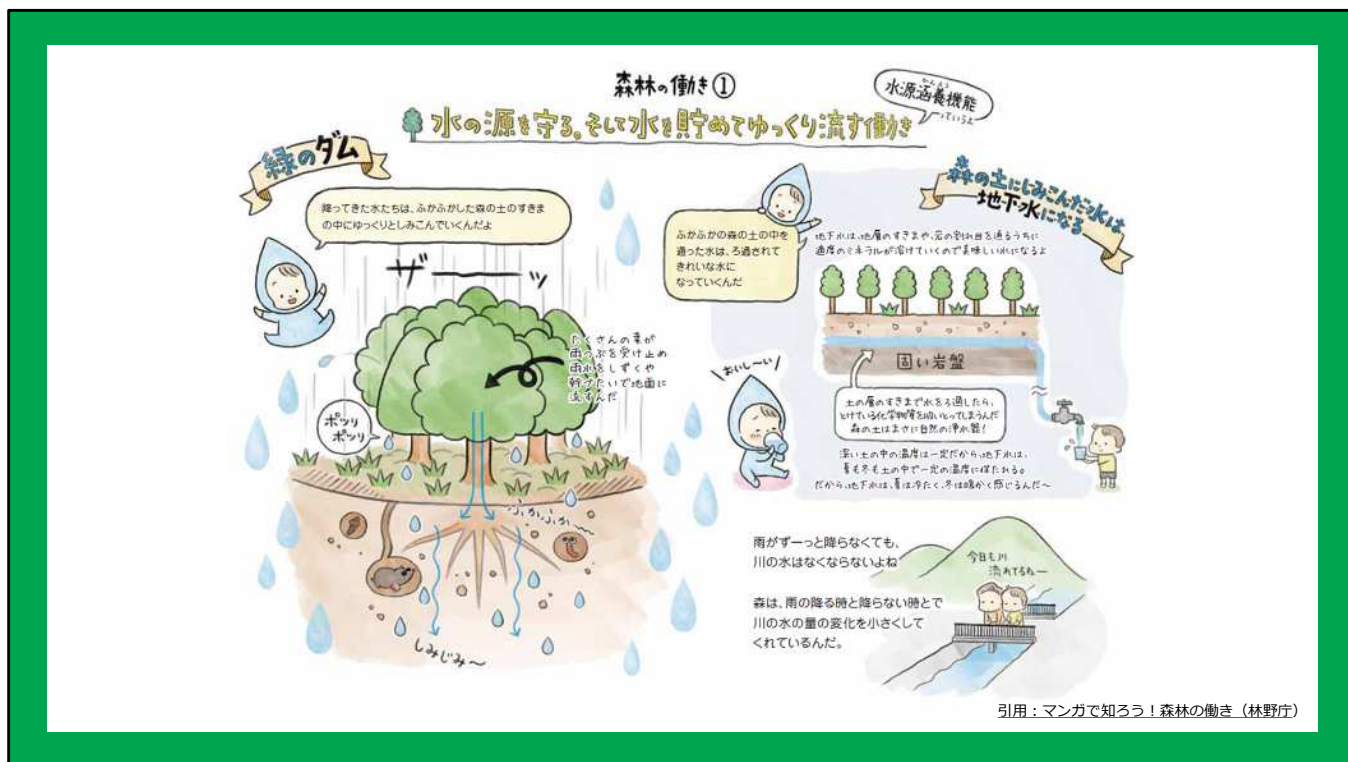


- 私たちの暮らしは、森林の様々な働きによって支えられています。
- その働きがきちんと機能するため、特に人工林においては、「伐って・使って、植えて、育てる」という循環を続けていくことがとても重要なのです。
- それでは、なぜ重要なのか見ていきましょう。



- 人が山にたくさんの小さな木を植えることを「植林」といいます。
- 植林された木は、大きく成長すると隣どうしで枝や葉が重なり合い、混みあった状態になってしまいます。
- そうなると木々に十分な日光が届かず、根や幹が太く成長しません。
- このため、混みあった木の一部を伐採する「間伐」という作業を行います。
- 間伐を行うと、混みあった木と木の間にゆとりができ、十分な日光があたって根や幹の成長が促進されます。
- また、地表近くまで日光が届くようになるため、下草が生え豊かな土壌が育まれるとともに、雨により地表の土が流れ出ることを防ぐ効果をもたらしてくれます。
- そして、木々は、成長するためにたくさんの二酸化炭素を吸収して、酸素を放出し、地球温暖化の防止に貢献してくれます。
- 大きく成長した木は、伐採され「木材」となり様々な用途に使うことができ、伐採された場所に新たに「植林」していくことで、バランスのとれた状態が維持されます。
- このように、健全な森林に育てるためには、植えて育てるだけでなく、伐っ

て使うことがとても大切なのです。

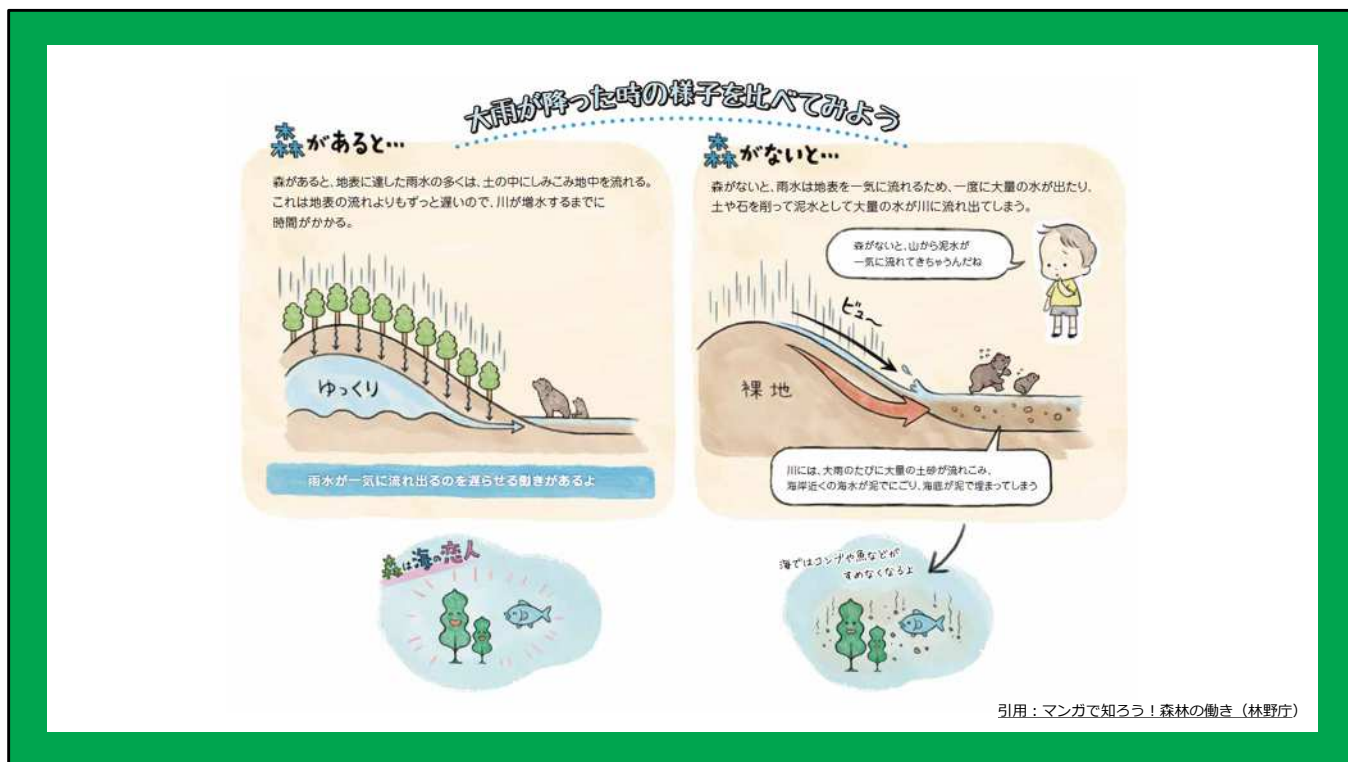


○ このように「伐って・使って、植えて、育てる」というサイクルで育てた健全な森林は、私たちの生活にさまざまな恩恵をもたらす働きをします。それではその働きを具体的に見ていきましょう。

○ 働きの1つ目は、「水の源を守り、水をためてゆっくり流す働き」です。これは、「水源涵養機能（すいげんかんようきのう）」といいます。

○ 森林に雨が降ると、たくさんの葉っぱに雨水は受け止められ、その葉っぱや木の幹づたいで、水は地面にしみこんでいきます。

○ 森林の土にしみこんだ水は、ろ過されて綺麗になり、私たちが飲む水の源になります。



- また、大雨が降ったとき、森林の有無で水の流れが大きく変わります。
- 森林がないと、空から降ってきた雨水は、地面に落ちた後、地表を一気に流れてしまいます。
- これにより、急激に川が増水してしまったり、土や石の混じった泥水が川に流れ出てしまいます。
- 泥水が川に流れ出してしまうと、その大量の土砂が海岸にまでたどり着き、海底が泥で埋まってしまい、海洋生物の生態系に影響を与えてしまいます。
- 一方で、森があれば、さきほどお話ししたとおり、たくさんの水は土の中にしみこんで、地中をゆっくり流れます。
- このため、急な川の増水を抑え、氾濫を防いでくれます。



○ つづいて、「土砂くずれを防ぐ働き」です。これは、「土砂流出・崩壊防止機能」といいます。

○ 森林の土の中では、木の根が網目のように張り巡らされていることにより、森林の土が流れ出てしまったり、崩れることを大きく防いでいます。

○ また、下草や落ち葉などがあることで雨つぶの勢いを弱めてくれるため、雨水で土が流されることを防いでくれています。

○ こうした働きによって、私たちは土砂災害の危険から守られているのです。



○ そして、「地球温暖化の防止」です。これは「地球温暖化防止機能」といいます。

○ 地球温暖化とは、石油などの化石資源を使い続けることにより、大気中のCO₂（二酸化炭素）などの割合が増え、本来赤外線として宇宙に放出されるはずの地球の熱がたまりこんでしまい、地球の気温が上昇してしまうことです。

○ 木は光合成を行うなかで、空気中のCO₂を吸収し、幹や枝などにため込んでいきます。

○ 苗木から大きく成長していく若い時期は、特に多くのCO₂を吸収するため、地球温暖化の防止に特に大きく貢献してくれます。

○ このように、森林は木材としての利用だけでなく、私たちが暮らす社会で様々な働きを果たし、恩恵をもたらしてくれているのです。

そのほかにもこんな機能があります

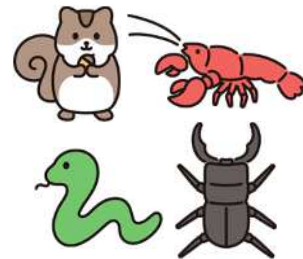
いろいろな資源の創出



人を快適な気持ちに

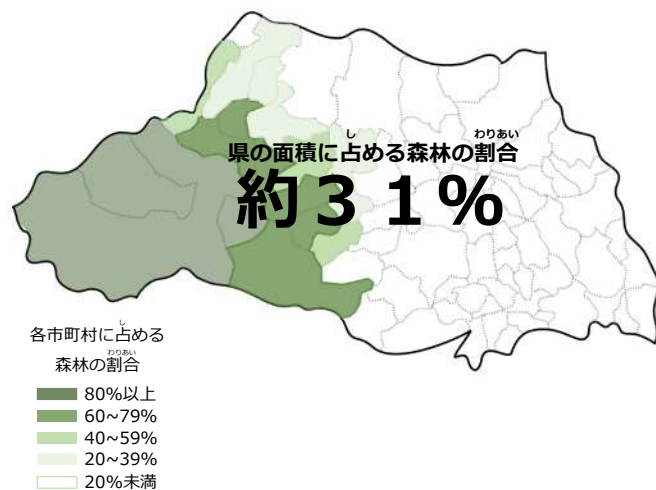


さまざまな生き物の住処に



- その他にも、森林は、山菜やきのこなどの食料や木炭などの資源を生み出してくれたり、森林浴などを通して、私たちが快適な気持ちにさせてくれます。
- また、さまざまな生き物の住処となり生物多様性を保全する機能も果たしています。

埼玉県の森林 について知る



- それでは、皆さんが暮らす埼玉県には、そもそもどのような森林があるのでしょうか。
- 埼玉県の森林は、県の面積の約3分の1を占めています。
- 森林は主に県の西側に多くあり、標高によって、奥地林、山地林、丘陵林、平地林に分けられています。
- このように、「森林」といっても、埼玉県には多彩な種類の森林が息づいているのです。



平地林

むさしのちいき

武蔵野地域

川越市、所沢市、
ふじみ野市、三芳町

むさしの おちかげ
武蔵野の面影を残す里山や、コナラ・クヌギ
へいちりん ちいき
の平地林が広がる地域です。

ここでは、木々の落ち葉を掃き集めて、1～
2年かけて堆肥にして畑に入れ、豊かな農業
ちいき
地域を生み出してきた歴史があります。

せいかいのうぎょういさん むさしの
世界農業遺産に認定されたこの『武蔵野の落
ち葉堆肥農法』は、360年以上にわたり受け
つ
継がれてきました。



○ 多彩な森林の一つとして、令和5年に国連食糧農業機関（FAO）「世界農業遺産」に認定された、川越市、所沢市、ふじみ野市、三芳町で構成される武蔵野地域を紹介します。

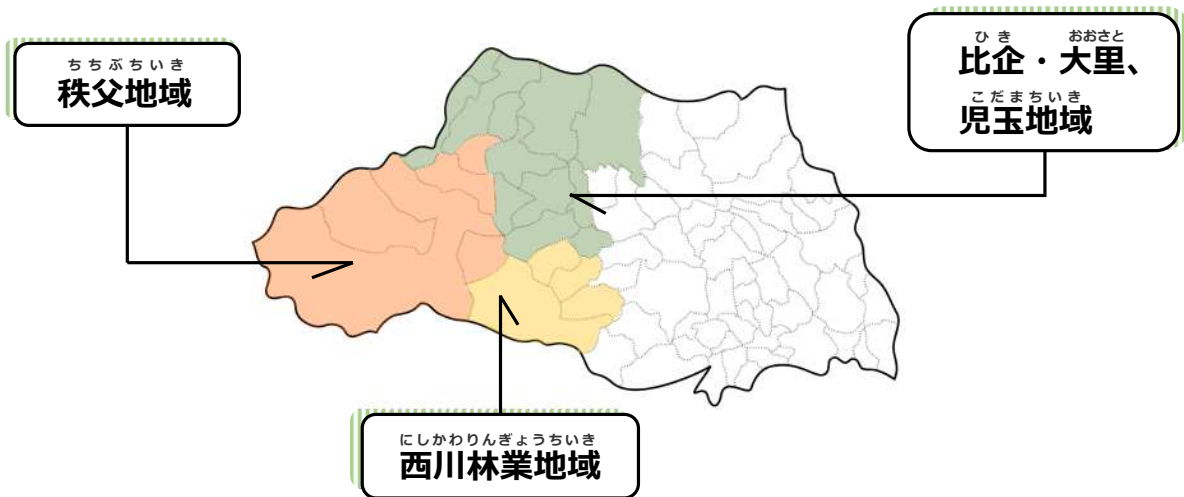
○ 「世界農業遺産」とは、国際的な機関によって認定される、世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域のことで、令和7年10月現在、日本では17地域が認定されています。

○ 武蔵野地域は、武蔵野の面影を残す里山や、コナラ・クヌギの平地林が広がる地域です。

○ ここでは、木々の落ち葉を掃き集めて、1～2年かけて堆肥にして畑に入れ、豊かな農業地域を生み出してきた歴史があります。

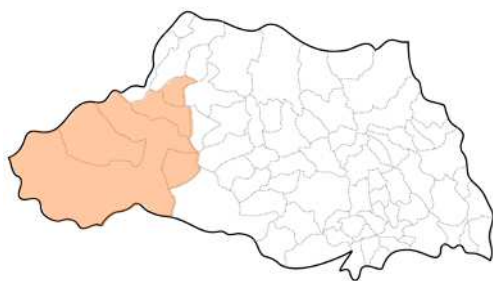
○ この『武蔵野の落ち葉堆肥農法』は、360年以上にわたり受け継がれてきた、伝統的な農法です。

木材の生産がさかんな **3** ちいき 地域



- つづいて、木材の生産がさかんな3つの地域を紹介します。
- 一口に「木材」といっても、育てられた地域により、様々な特徴があります。

ちちぶちいき
秩父地域 Chichibu



森林面積が8割以上を占める地域です。
秩父市が管理する森林の一部では、神社
やお寺といった文化施設の修理に欠かせ
ない太い木を育てるため、なんと200年
の樹齢をめざす作業方法を取り入れてい
ます。



文化施設の修理に使用する「櫨皮（ひわだ）」を採取している様子

- まず秩父地域です。
- 森林面積が8割以上を占める秩父地域では、高性能な林業機械を積極的に活用し、作業の効率化を図っています。
- 幹の曲がりが少ない木を残して間伐を繰り返していく作業方法では、普通は木が木材を生産するのに適した太さに達する50年くらいで伐採をします。
- しかし、秩父市が管理する森林の一部では、神社やお寺といった文化施設の修理に欠かせない太い木を育てるため、なんと200年の樹齢をめざす作業方法を取り入れています。
- 先人たちが守り続けた森をさらに未来へつなげるための、世代を超えた“活樹”のリレーです。

にしかわりんぎょうちいき
西川林業地域 *Nishikawa*



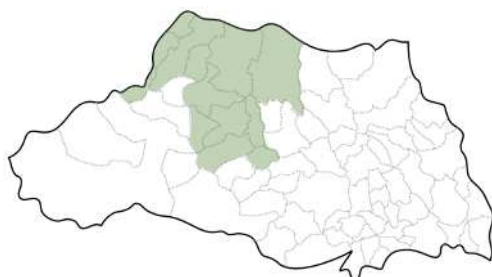
はんのう 飯能市、ひだか 日高市、もろやま 毛呂山町、おごせ 越生町周辺
で育てられた木材は、とくに『西川材』
と呼ばれています。

年輪が緻密であるため強度に優れ、色や
艶が美しいのが特長です。



- 飯能市、日高市、毛呂山町、越生町周辺で育てられた木材は、とくに『西川材』と呼ばれています。
- 『西川材』は、枝打ちや間伐を丁寧に行っており、良質な木材として高い評価を得ています。
- 年輪が緻密であるため強度に優れ、色や艶が美しいのが特長です。
- 江戸時代、この地方から木材を「いかだ」で江戸に運んでいたのも、「江戸の西のほうから来る木材」という意味から、この地方の木材が西川材と呼ばれるようになりました。
- 森と川のつながりが、この地域で“活樹”に役果たしています。

ひ き おおさと こだま ち い き
比企・大里、児玉地域
Hiki/Osato/Kodama



林業の効率化・省力化が進められている
ちいき
地域です。

植林に使う苗木を、細長い容器の中で育
てるコンテナ^{なえ}苗を活用したり、3Dレー
ザースキャナによる測量などを活用して
います。



コンテナ苗



3Dレーザースキャナによる測量

- 林業では、人手不足と高齢化が大きな問題となっています。
- そんななか比企・大里・児玉地域では、林業の効率化・省力化が進められています。
- 例えば、植林に使う苗木をコンテナ苗と言って、細長い容器の中で苗を育てることで畑の草取りを省力化でき、植えるときにも小さい穴を掘ればよいいため、作業の効率化につながります。
- また、3Dレーザースキャナといって、人が木の高さや太さを直接測らなくても、機械から出るレーザービームやコンピューターを利用して測ることができる測量技術なども積極的に活用しています。

Around 1938

昔の埼玉県内の山の様子



いきすぎた伐採ばっさいで木々がなくなってしまった山

- このように、埼玉県の中でも地域によって多彩な森林があることを見てきましたが、豊かな森林が昔からずっと保たれていたわけではありません。
- 特に、明治から昭和にかけて、全国的に急激な人口増加と工業化がすすみました。
- これに伴って建物の建築や、産業用の燃料として薪や炭がたくさん必要となったため、多くの木が伐採されました。
- 過剰な伐採がつづいたことにより、大洪水が頻発し、人々の生活に大きな支障が生じました。



ほんだせいろくはくし くきし きょういくいいんかい しょう
本多静六博士（久喜市教育委員会蔵）

日本最初の林学博士
ほんだ せいろく
本多 静六



めいじじんぐう
明治神宮



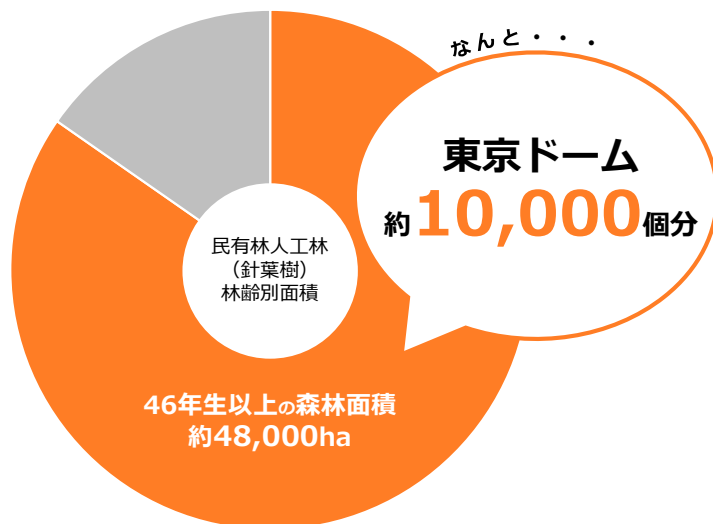
ひびやこうえん
日比谷公園



おおみやこうえん
大宮公園

- 日本の森林再生に大きな役割を果たしたのが、埼玉県出身の「本多 静六（ほんだ せいろく）」さんです。
- 1865年に現在の久喜市で生まれた本多静六さんは、ドイツ留学をして当時の先進的な森林や林業の知識を学び、日本で最初の林学博士となりました。
- 明治神宮の森、日比谷公園や大宮公園などの公園の設計にも携わった、「日本の公園の父」とも呼ばれている人です。
- このほかにも、たくさんの森林を埼玉県に寄付したり、金銭的な余裕がなく学校に通えない子どもたちへの学費のサポートなどを行いました。
- また、本多静六さんは、樹木を伐採しすぎて荒れてしまった山林の復旧にも尽力し、これらの甲斐あってか、伐採跡地などへの植林が積極的に推進されました。
- その結果、現在の埼玉県の森林はどのような状況にあるのでしょうか。

じん こう りん の
 人 工 林 の
 約 8 わり 割 が
 利 用 可 能



令和7年3月31日現在

- 本多静六さんをはじめとする先人たちが、木を「植えて・育て」てくれた今、人工林の約8割が植林してから46年以上が経ち、木材として利用可能な時期を迎えています。
- その総面積はなんと東京ドーム約1万個分！
- しかしながら、伐採や育成にかかる高額な費用や、林業に携わる人口の減少などにより、伐採自体がなかなか進まないことから、新たな植林ができず、若い人工林が少なくなっていて、「伐って・使う」ことを進める必要があります。



○ そこで、埼玉県では、いろいろな施設で埼玉県の木材が使われるように働きかけを行っています。

○ 例えば、坂戸市の保育園や、小鹿野町の町役場、ときがわ町の中学校では、写真からわかるように、多くの木材が使われています。

○ どの施設も、木のあたたかさが感じられ、やわらかな印象で素敵なデザインとなっています。



○ また、埼玉県が整備した埼玉県農業大学校では、柱などに県産木材をなんと97%も使用しています。

○ このほかにも、県産木材の活用を促すため、県内すべての市町村で公共施設を木造化・木質化する方針が定められており、木材の利用拡大が埼玉県内全体で進められています。

\\ 木製品を使ってみよう //

埼玉の木づかい応援カタログ



QRコードは
こちら



- 埼玉県ホームページでは、埼玉県産の木材を使った製品を紹介するカタログ「埼玉木づかい応援カタログ」を掲載しています
- どんなものが作られているのか、是非お母さん・お父さんと一緒に見てみてください。
- そして、毎日の暮らしの中に、木を使ったものを取り入れてみてください。
- 埼玉県産の木材を『使う』ことによって、森林を若返らせ、埼玉の森林と林業を守ることにつながるのです。

ところで・・・

令和 7 年 5 月 2 5 日

何が行われた日か知っていますか？



- ところで、令和 7 年 5 月 2 5 日。実は、埼玉県で大きなイベントがありました。
- 何が行われた日か、みなさん知っていますか？



○ 令和7年5月25日。 第75回全国植樹祭が開催されました！

ぜんこくしよくじゅさい 全国植樹祭って？

 森林・みどり  に対する理解を深めるた
めに開催される行事です。

昭和25年に山梨県で開催されてから、毎年春
に各都道府県で実施しています。

埼玉県では、66年ぶりとなる第75回
全国植樹祭を令和7年5月25日に開催。

天皇陛下の御臨席を仰ぎ、たくさんの参加者と
共に 式典行事 や 記念植樹 を行い
ました。



- 全国植樹祭は、森林・みどりに対する国民的理解を深めるために、各都道府県を会場に開催している行事です。
- 昭和25年に山梨県で開催されて以来、毎年春に開催されています。
- 埼玉県では、昭和34年以来、なんと66年ぶりに、第75回全国植樹祭を令和7年5月25日に開催しました。
- 当日は、天皇陛下の御臨席を仰ぎ、県内外から訪れた参加者と共に、式典行事や記念植樹を行いました。

大会テーマ

人・森・川 つなげ未来へ さい 彩の国

シンボルマーク



大会ポスター原画



記念切手



○ 埼玉県大会では、大会テーマ・シンボルマーク、大会ポスター原画を幅広く募集し決定しました。

○ 大会テーマ「人・森・川 つなげ未来へ 彩の国」です。

○ 県に暮らす「人」が、植樹によって「森」を育み、森林から流れ出る「川」によって人々の生活が潤される営みを「未来」の子供たちにつないでいこうという強い思いが込められており、開催理念が見事に表現された作品です。

○ シンボルマークは、埼玉県のマスコット「コバトン」と「さいたまっち」が、大きく力強く配置され、大会テーマにある「森」と「川」が明確にバランス良く描かれています。

○ 虹は、彩の国の彩りを表すとともに、未来へつながる架け橋をイメージさせます。大会テーマが盛り込まれた、大会にふさわしい作品となっています。

○ 大会ポスター原画は、地球から芽吹く若葉と大きく成長した木々が、植樹の大切さを力強く訴えかけています。その木々が、未来を担う子供たちと手をつないでいる姿が、大会テーマのイメージを印象深く表現しています。

○ また、本大会の開催を記念して、県にちなんだモチーフを取り入れた記念切手も発行されました。

○ どれも「埼玉県らしさ」が表現された素敵なデザインになっています。

おのだてしょ お野立所

てんのうへいか
大会当日、天皇陛下が
ごちやくざ
御着座されました。

ぜんこくしよくじゆさい
第75回全国植樹祭の

お野立所のデザインは、
連なる山々が表現された
屋根や、トラス構造の美し
い木組みとくちようが特徴となっています。



- 第75回全国植樹祭は秩父市・小鹿野町に位置する「秩父ミュージックパーク」にて実施しました。
- 天皇陛下が御着座された場所、「お野立所（おのだてしょ）」は、県産木材を使用して制作されました。
- 連なる山々が表現された屋根や、トラス構造の美しい木組（きぐみ）が特徴的で、会場周辺の景観と調和したデザインとなっています。

記念式典

お手植え

ケヤキ・スギ(少花粉)・トチノキ



お手播き

ヒノキ(少花粉)・アカシデ



○ 「記念式典」では、天皇陛下のご臨席を仰ぎ、埼玉県にゆかりのある木々の苗木と種を、お手植え（おてうえ）・お手播き（おてまき）いただきました。

記念式典

ダンスパフォーマンス



○ このほかにも、「埼玉県らしさ」をふんだんに取り入れたパフォーマンスも実施。



○ 陛下がお使いになられた御机（おつくえ）や、会場に設置されたベンチ、プランターカバーなどの木製品は、すべて県産木材を活用して制作されました。

\\ 埼玉から全国に“^{かつじゅ}活樹”を発信！ //



- 「人・森・川 つなげ未来へ 彩の国」という大会テーマのもと開催された「第75回全国植樹祭」。
- 埼玉から全国に“活樹”をキーワードとして、「木を活かしていくことの大切さ」を発信しました。

おわりに



みなさんの身の回りには、どんなものがありますか？

教室のつくえやイス、えんぴつ、お箸、棚・・・

木で出来ているものは、たくさんあります。

そして、みなさんの生活にとけこんでいます。

“ 活 樹 ”

この言葉を胸に、これからも木で出来たものを使ってみてください。

本多静六さんをはじめとして、みなさんの遠い遠い先輩たちが、未来に生きるみなさんのために、多くの苗木を「植えて、育て」てきてくれました。

先輩たちがつないでくれた苗木のバトンを、次はみなさんが「伐って・使って」つないでいく番です。

- みなさんの身の回りには、どんなものがありますか？
- 机や椅子、えんぴつ、お箸、棚・・・
- 木で出来ているものは、たくさんあります。そして、みなさんの生活に溶け込んでいます。
- “活樹（かつじゅ）”
- この言葉を胸に、これからも木でできたものを使ってみてください。
- これまで学んできたように、健全な森林を維持するためには、「伐って・使って、植えて、育てる」という持続的なサイクルがとても重要です。
- 本多静六さんをはじめとして、みなさんの遠い遠い先輩たちが、未来に生きる皆さんのために、多くの苗木を「植えて、育て」てきてくれました。
- 先輩たちがつないでくれた苗木のバトンを、次はみなさんが「伐って・使って」つないでいく番です。